

「公認心理師」受験資格にも対応!!

臨床心理士の
ダブル資格!

公認心理師は、保健医療、福祉、教育などの分野で、心理学の専門的知識と技術をもって、心理的支援の必要な方やその家族・関係者に対して、心理状態の査定や心理相談・心理療法など支援を行うとともに、心の健康に関わる知識普及教育や情報提供の活動も行うための資格で、心理職初級の国家資格です。臨床心理士など従来からの民間資格に加えて国家資格ができたことで、職域の拡大やより安定した就労が期待されます。



本学では、心理学科および心理学研究科で、これまでの心理専門職養成の実績をベースに、2018年4月より養成を開始しました。臨床心理学専攻は臨床心理士養成の第1種指定校として、2003年より心理専門職の養成をはじめ、これまでに100名以上が臨床心理士資格を得て各分野で活躍しています。公認心理師の養成が加わったことにより、これまで以上に実習内容を再編・充実させ、建学の精神を備え、かつ現代ニーズにあった心理専門職を養成していきます。

「公認心理師」になるには、国家資格を受験して合格しなければなりません。これから学ぶ人にとっては、上記のいずれかが受験の条件となります。

※受験資格を取得するためには、本専攻入学前に公認心理師法施行規則(平成29年文部科学省・厚生労働省令第3号)で指定された学部科目を履修して大学を卒業し、本専攻に入学後に同施行規則で指定された大学院科目を履修して修了する必要があります。学部科目の履修状況(経過措置による科目代替も含む)については、各自で確認をしてください。

実習施設と地域貢献活動

本研究科では、大学附属の「心理臨床センター」をはじめ、地域社会と連携してさまざまな活動を行っています。実習の一環として、また、大学院生の自主的な学びの場にもなっています。

心理臨床センター

2003年に設立された当センターは、地域の一般の方々から利用できる相談機関です。

子どもから大人までを対象として、ご本人や家族の方の心理的な悩みや発達上の心配事などについて、カウンセリングやプレイセラピーなどの心理相談を行っています。また、心理検査や発達検査を用いたの査定も行っています。

当センターは、臨床心理士養成のための第一種指定校における学内実習施設でもあり、公認心理師養成の学内実習も展開しています。

心理臨床センター エントランス
プレイルーム1
面接室
プレイルーム2

京都府ひきこもり支援 インターネット相談

2007年から始まった、全国でも先駆的試みである、ひきこもりの方と、そのご家族を対象としたネット上の個別相談で、16年目を迎えました。

心理学研究科 臨床心理学専攻が京都府青少年課から府内で唯一委託を受け、大学院生と教員とがチームとなり、メールでの相談を行っています。

ネットを介した心理臨床の可能性を開拓し、大学院生にとっては、書き言葉での「やりとり」を学ぶ機会となっています。

京都府立医大病院 こころの相談コーナー

本学と京都府立医科大学との連携協定に基づき、2015年8月より、京都府立医科大学附属病院外来部門の一角に心理臨床センターの分室として「こころの相談コーナー」を開いています。

このコーナーは、患者さまのご家族を対象に、看病や介護のなかでのストレスやこころの負担が抱えやすくなることを目的として、心理相談室から臨床心理士スタッフを派遣し、相談をお受けしています。

その他にも、小・中・高ノートルダム系列校と連携しての活動、京都市教育委員会「学びのパートナー」事業への参画、京都市発達障害者支援センター「かがやき」と連携など、継続的に行われている活動もあります。

京都ノートルダム女子大学 大学院
心理学研究科
臨床心理学専攻 (博士前期課程)
心理学専攻 (博士後期課程)

[住所] 京都市左京区下鴨南野々神町1
[公式サイト] <https://www.notredame.ac.jp/>
[入試関連] Tel : 075-706-3747
E-mail : admissions@ml.notredame.ac.jp



京都ノートルダム女子大学 大学院 心理学研究科

臨床心理学専攻 (博士前期課程)

臨床心理士 第1種指定校 / 公認心理師 (大学院) 養成カリキュラム

心理学専攻 (博士後期課程)



2025年度のご案内



心理学研究科が育てる 臨床の眼 科学の眼

心理学研究科は「臨床心理学専攻」(博士前期課程)と「心理学専攻」(博士後期課程)の2専攻で構成されています。「臨床心理学専攻」では、現代社会におけるこころの諸問題を探究し、支援を必要とする人々に対して適切な心理的支援が行える専門家の養成を、「心理学専攻」では、心理学に関する高度な知識を有し、応用的場面で活かせる自立的な研究者の育成を目指しています。

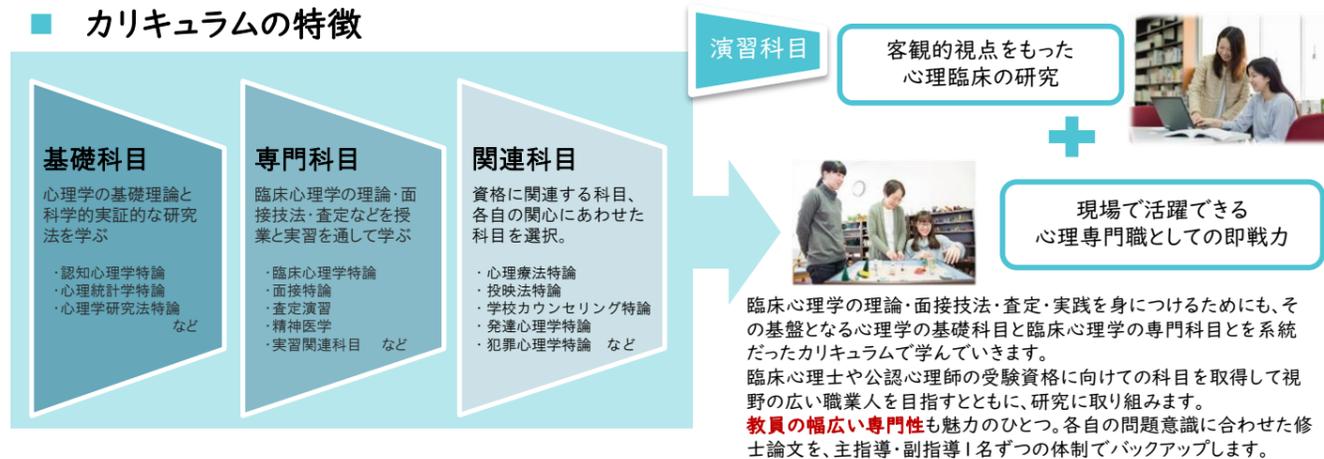
心理アセスメントや心理療法の専門的知識・理論の修得だけでなく、こころの仕組みや問題について、客観的に把握し説明できることは、これからの心理専門職にならなければならない力です。

科学的な視点で理解・説明ができること、あたたかい眼差しと高い倫理観をもち心の支援を必要とする人々の力になれること…。ND (Notre Dame) ではその両輪をそなえた人を育てるためのプログラムを用意しています。

定員
10名

臨床心理学専攻 (博士前期課程)

カリキュラムの特徴



Topic: 教授陣の多彩なテーマ

- 青年期の心理
- アイデンティティ
- 行動分析学
- 深層心理学的心理臨床
- 自己制御
- 社会心理・対人行動
- 心理学的アセスメント
- 認知行動療法
- 精神分析・対象関係論
- 認知機能の生物学的基盤
- パーソナリティ研究
- コラージュ療法
- 心理的居場所
- 乳幼児の認知・言語発達
- ソーシャルサポート
- 自己意識・自己認知
- 描画法(テスト)
- 子育て・家族支援
- 学習意欲・動機づけ
- 障害児の心理と支援
- スクールカウンセリング
- セルフコントロール
- 統合的アプローチ
- LGBTQ+の心理
- HIV患者の支援 など…

充実した実習体制

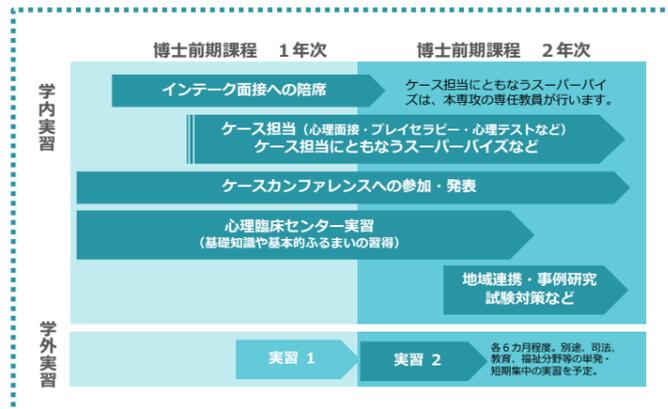
学内実習は、大学附属「心理臨床センター」において、心理面接や心理アセスメントを中心に、クライアント個々への心理的サポート、さらに、地域との連携を学びます。学外実習は、保健医療・福祉・教育の3分野のうち、長期実習を2分野、そのほか司法分野など短期・単発の実習を加え、3～4分野で体験できます。

取得可能な資格
公認心理師(受験資格)(※)
臨床心理士(受験資格)第1種指定校 A評価



インタビュー陪席

カンファレンス



※: 大学(学部)において、公認心理師試験受験のために必要な指定科目を修得して卒業していることが前提となります。

主な学外実習施設

- ノートルダム学院小学校
- ノートルダム女学院中学高等学校
- 精神科病院、精神科クリニック
- 教育相談センター
- 児童発達支援事業所
- 発達障害者支援センター
- 通信制・単位制高等学校
- 子育て支援センター
- 少年鑑別所 など

修士論文 タイトル例

- 家族介護に対する女子大学生の意識を規定する要因について
一介護選択場面のわりきり・あきらめに着目して一
- 大学生における情報処理スタイルと情報過多感が精神的健康に及ぼす影響
- セルフコントロールとストレス要因がインターネットゲーム依存に与える影響
- がん罹患後の価値観の変化と同病者の存在が就労意欲と健康行動に与える影響について
- 震災に伴う高齢者の心理的過程について
- 養育者のアタッチメントスタイルが育児不安に与える影響について
一被援助志向性とソーシャルサポートの観点から一
- 電話相談ボランティアのレジリエンスが長期継続動機に及ぼす影響について
一感情労働とストレスの関連より一
- メンタルヘルス不調に関する相談行動の意思決定プロセスについて
- 大学生の過剰適応傾向と他者からの期待の受け止め方、ストレス反応との関連
- 不登校経験を持つ者同士の関わり合いが不登校からの回復にもたらすもの
一関わり様の相とその展開に注目して一
- 難聴者が「きこえにくさと共に生きるということ」とその捉え方の変容過程
- 就学前期の不適応問題に関する研究
一就学前児の不安特性と親の愛着および養育態度との関連一
- 介護を必要とするペットの主介護者における介護負担感の軽減に関する検討
一パーソナリティ特性・介護肯定的評価・ソーシャルサポートの観点から一
- 月経観と母娘関係及びセルフ・エフィカシーの関連 など

幅広い学びから 多様な進路へ

特定分野や技法に偏らず、臨床心理士・公認心理師としての基礎固め。論文を通して、論理的思考の修得

保健医療、教育、福祉、司法、産業などさまざまな進路を踏まえた教育プログラム

修了後は、それぞれの希望を実現する形で就職・進学へ

【過去の実績】

精神科病院・精神科クリニック、少年鑑別所矯正専門官、都道府県警察署少年補導職員、国立がんセンター(心理・研究)、スクールカウンセラー、教育相談センター相談員、大学学生相談室相談員、児童発達支援事業所発達支援員、児童心理治療施設、地域福祉支援センター、児童相談所心理判定員、発達障害者支援センター、総合病院精神科 など

定員
4名

心理学専攻 (博士後期課程)

心理学専攻は、本大学心理学科から心理学研究科へと繋がる、一貫教育の最終段階、博士後期課程です。科学的心理学に基づく研究能力を備え、それを基盤としてこころの問題に有効に対処できる力をもつ人を養成としています。また、研究の集大成として博士論文を作成し、博士号の取得を目指します。

特殊研究科目

心理学特殊研究A(認知心理学) 心理学特殊研究B(発達・教育心理学)
心理学特殊研究C(心理療法) 心理学特殊研究D(心理アセスメント)

演習科目 特殊演習 / 後期特別研究

長期履修学生制度

仕事を続けながら学びたいという社会人等に向けた制度です。心理学専攻でも設けており、通常と同額の学費で、最大標準の2倍の期間をかけて修了を目指すことが可能です。

教員紹介

心理学研究科教員の多様な研究・実践分野を紹介します。	伊藤 一美 教授 研究分野 臨床発達心理学 テーマ 臨床心理学と発達心理学の2つに軸を置き、パーソナリティや家族関係について研究	尾崎 仁美 教授 研究分野 青年心理学/教育心理学 テーマ 大学生の学習意欲・学習成果に関する研究
菊野 雄一郎 准教授 研究分野 認知心理学 テーマ 認知機能の生物学的基盤に関する研究	薦田 未央 教授 研究分野 発達心理学/臨床発達心理学 テーマ 言語・社会性の発達および乳幼児期から児童期における発達支援の実践研究	佐藤 睦子 教授 研究分野 学校臨床心理学 テーマ 学校現場における多職種連携のあり方、芸術療法を用いた相談者さんの心理に関する理解
下田 麻衣 講師 研究分野 社会心理学 テーマ 適応的/不適応的な自己制御過程に関する研究	空間 美智子 准教授 研究分野 臨床心理学/行動分析学 テーマ セルフコントロールと衝動性についての基礎研究とその知見を臨床現場に応用する実践研究	高井 直美 教授 研究分野 発達心理学 テーマ 言語・想像性・社会性の発達
仲倉 高広 講師 研究分野 臨床心理学 テーマ HIV陽性者への心理療法的援助についての研究	中藤 信哉 講師 研究分野 臨床心理学/青年心理学 テーマ 心理的居場所に関する研究	松島 るみ 教授 研究分野 教育心理学 テーマ 学習者の自律的学習態度を規定する要因やその方法に関する研究
向山 泰代 教授 研究分野 パーソナリティ / 自己認知 テーマ 性格や自己認知の分野での個人差や個性の表現を、性格記述語や写真などを素材として研究	武藤 翔太 講師 研究分野 臨床心理学/心理(的)アセスメント テーマ 心理検査のフィードバック/グループアプローチ	…臨床心理学専攻 …臨床心理学専攻 および 心理学専攻